

執筆 者 紹 介 (掲載順)

池田浩士 (いけだ・ひろし)

一九四〇年大津生まれ。ドイツ文学・現代文明論。京都精華大学客員教授。一九六八年から二〇〇四年まで京都大学勤務。著書に『ファシズムと文学』(白水社)、『教養小説の崩壊』(大衆小説の世界と反世界) (以上、現代書館)、『死刑の「昭和」史』、『海外進出文学』論・序説 (以上、インパクト出版会)、『虚構のナチズム』(人文書院)、『池田浩士コレクション』(全一〇巻刊行中、インパクト出版会) など。

小野俊彦 (おの・としひこ)

一九七四年北九州生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府単位取得退学。大学院末期には朝鮮戦争期の北九州における港湾労働社会史を志すも諸事情により研究中座。二〇〇六年に誰でも一人でも不安定でも入れる労働/生存組合「フリーターユニオン福岡」を立ち上げ、現在同執行委員。エッセーに「フレカリアート」に「工作を」(本誌第二号) など。

植本展弘 (うえもと・のぶひろ)

一九七三年神奈川生まれ。『アナキズム』誌編集委員。フリーター全般労働組合員。反戦運動や合同労組の運動に合流するも現在は裏方で若干協力するて

いど。ひとこら民衆史学徒を志したものの賃労働に流され現在にいたる。モロモロ名義での論文に「無縁の蜂起 規制を突破する一味同心」「アナ/ボル」再論序説 津村同志の呼びかけに応えて」など。同名義での近刊に『アナ・ボル論争論序説』(北冬書房)。

崔真碩 (ちえ・じんそく)

一九七三年ソウル生まれ。神奈川在住。翻訳者・役者・文学者。青山学院大学非常勤講師。「野戦之月海筆子」の役者。編訳書に『季箱作品集成』(作品社)、主な出演作に野戦之月海筆子『変幻痴殻城』(二〇〇七年七月東京、九月北京)、主なエッセーに「影の東アジア」(『現代思想』二〇〇七年二月号)、『野戦之月海筆子になる』(本誌第二号) など。

竹数みさえ (たけやぶ・みさえ)

一九五四年生まれ。主婦。大学院で政治思想史を学ぶ。公立学校教員の夫の他、戦争花嫁で大陸帰りの母八七歳と軽度発達障害の大変個性的な子ども二人の、計五人暮らし。予備校講師のほか、さまざまな地域活動に参加。ネット上で二〇〇二年から「竹数みさえ」のぎ。問題主婦」というテキストサイトを継続中。

外山恒一 (とやま・こういち)

一九七〇年生まれ。八〇年代後半の反管理教育運動を出発点に、主に九州でさまざまな活動を展開。マルクス主義、アナキズムを経て〇三年以降は「ファシスト」を自認し、現在是我々団(九州ファシスト党)臨時総統。〇八年より、左右を問わず少なくとも戦後民主主義批判を前提とする後進活動家を育成するための私塾「黒色クートベ」を主宰。著書に『最低ですかー?』(不知火書房) など。

太田直里 (おおた・なおり)

一九七九年京都生まれ。京都造形芸術大学で染織を学びながら音楽活動をする中で、社会運動に興味をもつ。音楽で芝居に関わり、以降、自ら芝居を創ることを試みる。『あさやけやけて』作・出演(西部講堂)、『夢がさめたら』井上譲と共同作・出演(長居公園)、『夜光客』作・出演(ミック)。

朝浩之 (あさ・ひろゆき)

一九五一年高岡生まれ。早稲田大学政治経済学部中退。編集プロダクション・出版社の編集者、中国語学校長などを経て、現在フリーの編集者。これまで漢方薬メーカーのPR誌・ビデオ制作、百科事典・ガイドブック・中国語辞典など中国関連書の編集、

中国語学習ソフト制作、ウェブサイト「中国・本
情報館」、「人民中国」創刊五〇周年記念シンポジウ
ムの運営に関わる。

木田洋（きだ・ひろし）

一九四一年中国大連生まれ。日本敗戦後の四七年引
揚げ。明治大学商学部卒。商社に入社、日中国交回
復前から、中国貿易に従事。プロレタリア文化大革
命中の北京、広州、上海に駐在。七八年「中国健康
社」を設立、中国医学書の翻訳や鍼灸用品の輸入に
あたる。

久山信（ひさやま・まこと）

一九五三年生まれ。デザイン論。札幌光星高校時代
は12・18プリント系フ락ションを組織し、軍事反対
派と暗闘。上京後はクスボリ共同隊、愛情シーツ工
房で宣伝美術・照明オペ・作・演出・受付などを担
当。その後、通信社記者、クリエイティブディレク
ターなどを経て江湖に隠棲。共著書何冊かあるもい
ずれも絶版。前世紀に書いた評論、エッセイの一部
は今でもネット上で読める（らしい）。

千坂恭二（ちさか・きょうじ）

一九五〇年大阪生まれ。思想家。本誌編集委員。著
書『歴史からの黙示』（田畑書店）、共著『ドイツ・
ニューシネマを読む』（フィルムアート社）、論文
に「総破壊の使徒バクニン」「ニーチエ、悲劇の
誕生とアリアドネ」「シュティルナーと物象化論」
「シェーンベルクとフアジズム」「エルンスト・ユン
ガーの体験」「蓮田善明・三島由紀夫と現代の系譜」
「一九六八年の戦争と可能性」（本誌創刊号）など。

市田良彦（いちだ・よしひこ）

一九五七年兵庫生まれ。社会思想家。神戸大学大
学院国際文化学研究科教授。二〇〇一〇八年、
Mutinus 誌（仏）編集委員。著書に『闘争の思考』
（平凡社）、『ランシエール 新〈音楽の哲学〉』（白
水社）。訳書にポール・ヴイリリオ『速度と政治
地政学から時政学へ』（平凡社）、ルイ・アルチュ
セール『哲学・政治著作集』全二巻（共訳、藤原
書店）、マイケル・ハート&トニ・ネグリ『マルチ
チュード』（監修、NHK出版）など。

長原豊（ながはら・ゆたか）

一九五二年富山生まれ。法政大学経済学部教員。著
書に『天皇制国家と農民 合意形成の組織論』（日

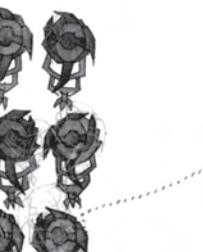
本経済評論社）、『われら瑕疵ある者たち 反「資本」
論のために』（青土社）。訳書にスラヴォイ・ジジェ
ク『迫り来る革命 レーニンを繰り返す』（岩波書
店）、同『ロベスピエール／毛沢東 革命とテロル』
（共訳、河出文庫）、アラン・パドイウ『倫理（悪）
の意識についての試論』（共訳）、同『聖パウロ 普
遍主義の基礎』（共訳）、以上、河出書房新社、同『世
紀』（共訳、藤原書店）など。

佐々木中（ささき・あたる）

一九七三年青森生まれ。哲学、現代思想、理論宗教
学。立教大学他非常勤講師。著書に『夜戦と永遠
フリーコ・ラカン・ルジャンドル』（以文社）。論文
に「この執拗な犬ども」（『現代思想』二〇〇九年六
月号）など。

桂秀実（すが・ひでみ）

一九四九年新潟生まれ。文芸評論家。本誌編集委
員。『日本読書新聞』編集長、日本ジャーナリスト
専門学校講師などを経て、近畿大学国際人文科学研
究所教員。著書に『帝国』の文学 戦争と「大逆」
の間（以文社）、『革命的な、あまりに革命的な
「1968年の革命」史論』『吉本隆明の時代』（以



上、作品社)、『1968年』(ちくま新書)、『増補新版 詩的モダン時代の舞台』(論創社)、共編著に『ネオリベ化する公共圏 潰滅する大学・市民社会からの自律』(明石書店)など。

ジャン・リュック・ナンシー (Jean-Luc Nancy)

一九四〇年フランス・ポルドー生まれ。ストラスブール大学名誉教授。ジャック・デリダ以後の世代を代表する哲学者として注目され、邦訳は『無為の共同体 哲学を問い直す分有の思考』(以文社)を始め、『エゴ・スム 主体と変装』(朝日出版社)、『声の分割』(松籟社)、『自由の経験』(未来社)、『複数にして単数の存在』(松籟社)等々三〇点以上にも及ぶ。

山本光久 (やまもと・みつひさ)

一九五〇年横須賀生まれ。『日本読書新聞』『現代詩手帖』『図書新聞』等の編集長を経て、就実大学人文科学部表現文化学科教授。訳書にロジェ・ラポルト『プルースト/バタイユ/ブランショ 十字路のエクリチュール』(水声社)、同『探究 指向の臨界点へ』(新宿書房)、ピエール・ジョゼフ・ブルードン『革命家の告白 二月革命史のために』(作品社)、フランソワ・ジェレ『地図で読む現代戦争事典』(河出書房新社)など。

家辺勝文 (やべ・まさふみ)

一九五〇年東京生まれ。言語学。日仏会館フランス事務所(フランス外務省・国立科学センター)在外共同研究所)事務局長。仏文日本歴史辞典(日仏

会館)の編集・制作に携わる。日本工業規格「日本語文書の組版指定交換形式」(JIS X 4052:2000)および「日本語文書の組版方法」(JIS X 4051:2004)の原案委員会委員。著書に『デジタルテキストの技法』(ひつじ書房)のほか、『活字とアルファベット』(法政大学出版局)が近刊予定。

ふたらのぶゆき (太等信行)

一九四八年岐阜生まれ。DTPオペレーター。モリサワ写植スクール修了後、けやき印刷に入社。『救援』『労働情報』『解放新聞(都連版)』などの組版・制作に携わる。エッセーに「なんと正しいことをしたのだろう!」(本誌創刊号)など。一九九〇年にフリーランスとなり、字幕書体のフォント化を目指すうちに関係者との交流が始まり、『字幕文化 光の文字の来歴』を執筆中。

土屋昌明 (つちや・まさあき)

一九六〇年神奈川生まれ。富士フェニックス短大ほかに勤め、現在、専修大学経済学部教授(中国語・国際事情など担当)。著書に『神仙幻想 道教的生』(春秋社)。編著に『東アジア社会における儒教の変容』(専修大学出版局)、『目撃!文化大革命 映画『夜明けの国』を読み解く』(太田出版)。翻訳に葛兆光『海潮音』の十年(『思想』二〇〇二年 一・二月号)など。

府川充男 (ふかわ・みつお)

一九五一年横浜生まれ。印刷史研究者・タイポグラファー。『印刷史研究』編輯委員。著書に『組版原

論 タイポグラフィと活字・写植・DTP』(太田出版)、『聚珍録』(三省堂)、『本と活字の歴史事典』(共著、柏書房)、『組版/タイポグラフィの廻廊』(ザ・一九六八)(以上、白順社)など。

第二号正誤表

以下のとおり訂正し、お詫びします。

(編集部)

× 世田谷ニョッキ

○ 世田谷時代1946-1954の図本太郎『第一巻所収』